

令和6年度 奈良商工会議所青年部  
提言書

つながる未来、つなげる期待  
～未来のならのために～



奈良商工会議所青年部

## ご挨拶

平素より奈良商工会議所青年部（以下「奈良YEG」）の活動にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。奈良YEGは昭和52年の創立以来、地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い、私たちが住み、学び、働くこの奈良という地域を今よりもっと魅力的にすることを目指して、日々活動しております。その一環として継続して行っている提言活動は、私たちにとっても地域を学び、地域を知る良い機会であるとともに、これから奈良が目指すべき未来をより良い未来にしたいという奈良YEGのメンバーの強い想いがこもった活動であり令和元年度より続けて提出させていただいております提言書も、今年度で6年連続提出させていただく運びとなりました。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が引き下げられて以後、地域の経済活動は空白の数年間を取り戻すべく活発化しました。為替相場の影響も受けインバウンドは増加し、奈良を訪れる観光客数もコロナ禍以前に近づいてまいりました。一方で、オーバーツーリズムによる弊害の発生、多発する自然災害、急速に進むDX化など対応すべき社会変化は数多くあります。しかし、令和7年に開催される大阪・関西万博や現在進行中のJR新駅設置など、私たちを取りまく環境に地域の未来にとって成長の機会となる明るい兆しがあり、このチャンスをしっかりと生かす必要があります。

今年度の提言書は「つながる未来、つなげる期待～未来のなるのために～」とし、観光と教育をテーマにいたしました。近年改善の兆しがみられるとはいえ、過去から地域課題となり続けている観光における滞在時間問題、そして就職・就業時における人口流出による関係人口減少問題に対し、課題解決に向けて組織として真摯に向き合い、議論を行い、中籾委員長をはじめとする地域創造委員会が提言書という形にまとめました。この提言書が「なら」にとって、希望や期待がにつながる、素晴らしい未来を目指す一助になることを信じております。

結びに、提言書作成にあたり、お時間を割いてご協力をいただきました関係各位の皆さまに改めて御礼申し上げます。

奈良商工会議所青年部  
令和6年度会長 犬伏 裕希

令和6年度 奈良商工会議所青年部 提言書  
目次

◆ご挨拶	・・・	1
◆はじめに	・・・	3
◆提言		
① 観光 「平城宮跡使用における利便性向上について」	・・・	4
② 教育 「キャリア教育の拡充について」	・・・	10
◆あしがき	・・・	16

## はじめに

奈良YEGは令和元年度に提言活動を再開し、今年度で6年連続の提言書の提出となります。新型コロナウイルスの猛威から約5年が経過し、社会は徐々に回復の兆しを見せていますが、少子高齢化による人口減少や、地震災害や異常気象の頻発など、私たちを取り巻く環境は依然として大きな課題に直面しています。

そのような中、我々奈良YEGは地域発展のために活動する組織として、平成22年度より行政の方を交え協力を得ながら、「新しい故郷の風会議」を開催させていただいております。ディスカッションをすることで、奈良の現状を認識し、これから目指すべき奈良の未来について真摯に考えました。

奈良YEGでは毎月1回、「明日の奈良YEGを考える会議」を開催しており、提言書についてグループディスカッションを重ね、提言書骨子案を作成してまいりました。そこで出た意見を集約し、今年度の提言書では、令和元年度に提言した内容をブラッシュアップする形で、観光「平城宮跡使用における利便性向上について」と、教育「キャリア教育の拡充について」の2つを掲げさせていただきました。そしてテーマを『つながる未来、つなげる期待～未来の「なら」のために～』とさせていただきました。

観光分野では平城宮跡に焦点をあて、奈良の観光資源を活用しやすくすることで、広く国内外に発信し地域内消費の促進につながることを目指します。

また、教育分野では、奈良の文化や歴史を次世代へとつなぐための取り組みを提案し、子どもたちが地元への誇りを持ち、将来的に奈良の発展に貢献できる環境づくりを目指します。

われわれ奈良YEGは、地域のことを真剣に考え、試行錯誤し、真摯に取り組んできた熱意や想いを提言書という形にして結集しています。

提言書作成にご協力いただきました行政の皆さまや奈良YEGのメンバー、共に真剣に活動してくれた地域創造委員会の仲間たちに深く感謝申し上げます。

結びに、この提言書が未来の「なら」に繋がることを祈念いたしまして、はじめの挨拶とさせていただきます。

奈良商工会議所青年部  
地域創造委員会 委員長 中藪 淳也

## 提言①

### 観光「平城宮跡使用における利便性向上について」

長い歴史の中、大切にされてきたものはこれからも守っていかねばなりません。しかし奈良の人口や経済が縮小し、守るべきものの維持が困難に直面することが起こりえます。

「歴史」とはそこに人がいて生活がありはじめて続いていくものであり、そこに生活がなくなり人がいなくなるとはいくら素晴らしい神社仏閣が残ったとしても、それは「歴史」ではなく「遺跡」になってしまいます。

このことから現代を生き、未来を創る我々世代全員が「過去からの歴史」(有形・無形・考え方・伝承・土地柄など)として残していかなければならないものと「これから作る歴史」のため変えていかなければならないものを精査し、過去とこれから作る歴史を守っていくため行動していかなければならず、奈良YEGとしても商工業者の立場から「考え実行していく責任」を感じています。

その点を前提に今年度の奈良YEGの提言の一つとしまして、既存の歴史的な施設を活用した奈良の活気向上(活性化)という観点から、イベントや祭りでの平城宮跡使用における利用制限の緩和や利用申請の簡素化による利便性の向上を目指し提言内容を取りまとめました。

奈良の観光業に関する見通しは明るく、長年の課題であった宿泊施設の少なさが改善されてきました。例えば令和6年9月ノボテル奈良が大宮町に開業しました。奈良の観光客数はコロナ禍の落ち込みから復活を遂げ、令和7年に過去最高の訪問者数となる予測です。令和8年春には日本初の星のや奈良監獄ホテルがオープンする予定であり、その話題性から、さらなる観光客の流入が期待できます。

一方で観光客が増えていても、奈良公園や東大寺など歴史的建造物の観光がメインとなっていることや、これら観光資源が近鉄奈良駅周辺に纏まっていることによる滞在時間の短さが課題といえます。この課題解決の一考としまして、イベントの開催頻度の増加やイベント内容の多様化により、滞在期間の長期化や奈良訪問回数の増加が期待でき、またそれらに伴う宿泊施設や商店などの活性化により地域の発展、つまり「これから作る歴史」に寄与するのではないかと考えました。

そこで具体的には平城宮跡でのイベント開催が課題解決の一助になると考え、多くのイベントが開催されることが望まれます。そのためには使用時の利便性の向上が求められ、奈良YEGとして毎年まつりを開催している経験から以下の通り提言を行います。

## 1. 奈良の観光業界の現況について

令和6年7月奈良市観光戦略課が発表した「奈良市観光入込客数調査報告」によると、令和5年に奈良市を訪れた観光客数は、1,219.9万人となり、コロナ前の令和元年と比べて約70%まで回復したことが分かりました。宿泊客数は令和元年を上回る174.8万人でした。観光客数に占める宿泊客数の割合は14.3%となり、2年連続で14%を超える高水準でした。外国人訪問者数は184.5万人（令和元年比55.6%）となりました。令和6年には令和元年の約9割まで回復する予測がなされました。

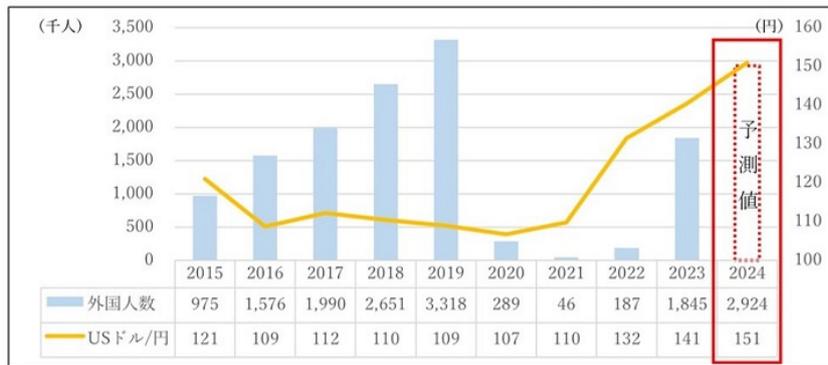
また経済波及効果については、観光客に提供される商品やサービスのうち、奈良市内で調達される分の金額（直接波及効果）は、648億円であり、その商品やサービスの原材料等への需要を満たすために奈良市内の産業で新たに発生する生産額が118億円、それらの産業で働く人たちの収入のうち、消費にあてられ奈良市内の産業で新たに発生する生産額が92億円と試算されています。これらの合計額は857億円と発表されました。観光消費による経済波及効果は、観光に直接関連していない産業も、間接的に恩恵を受けていることが、改めて浮き彫りとなりました。



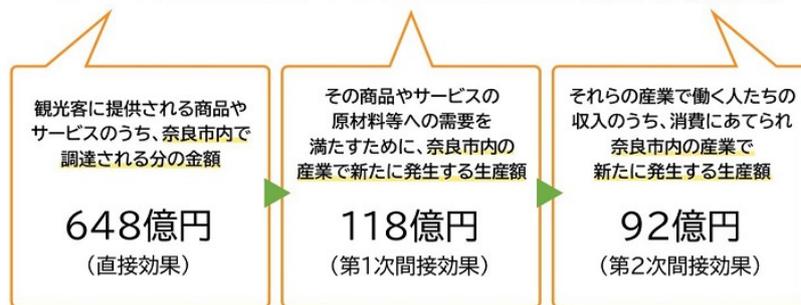
図表6 宿泊率の推移(10年間)



図表12 奈良市外国人訪問者数



**NEW/**  
2023年奈良市観光による経済波及効果は**857億円**



【2023年 奈良市観光入込客数調査】より

## 2. 平城宮跡の集客とお祭り開催について

奈良公園を訪れる観光客数は年間約1,300万人と活況を呈する中で、平城宮跡を訪れる観光客数は80万人～130万人（推計）であり、奈良公園と比べると集客力の観点では穏やかといえます。

奈良公園は春日大社の神使である「鹿」と気軽に触れ合うことができ、鹿せんべいを買ってエサを与える様子がSNSなどで拡散され、国内外の観光客が一度は訪れて体験してみたいというブランドを確立しました。

一方で、平城宮跡は奈良に住む地域住民にとって地元への郷土愛を育み、長い歴史を感じられる場所、また教育の場所として、利用目的をハッキリ分けてその役割を確立させることも必要ではないでしょうか。

平城宮跡で過去には、天平祭、大立山まつり、なら奈良まつり、平城京まつりなど、歴史をテーマにしたイベントや、地域に根差したお祭りが開催されてきました。私たち奈良YEGは、なら奈良まつりを13回開催させていただき、その中で課題がいくつかあると感じました。今後さらなる活性化を図っていくためには改善できる点があるのではないかと考えます。私たちはイベント主催者の観点から、これまで令和元年度、令和5年度と2度にわたり平城宮跡に関する提言をさせていただきました。

### 3. 提言

#### (1) 平城宮跡駐車場の拡充

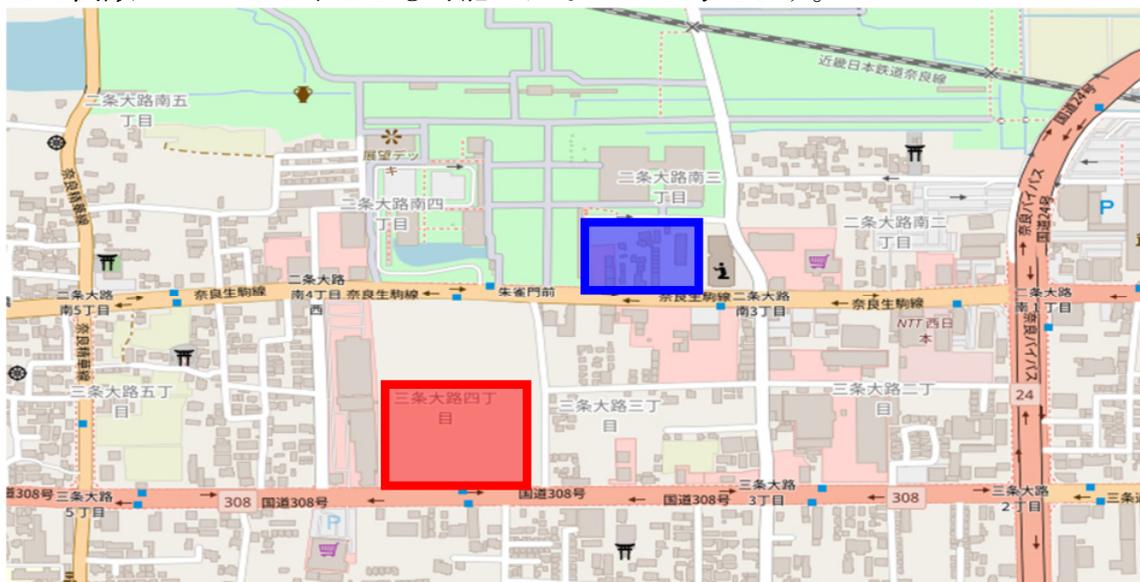
##### ① 現状の課題

令和6年で第13回目を数えたなら奈良まつりですが、イベント開催にあたって課題として、駐車場が不足し、近隣の施設や交通に影響を及ぼしていることが挙げられます。

周辺には県営奈良めぐり平城宮跡前自動車駐車場、朱雀門ひろば交通ターミナルの合計2箇所あり、駐車可能台数は乗用車合わせて172台、大型バスは30台です。仮に乗用車1台に4人が乗り合わせて来場したとすると、688人です。大型バス1台に45人が乗り来場したとすると、1,350人です。乗用車と大型バス合わせて合計2,038人しか受け入れすることが出来ず、大型イベントを行う場所としてはキャパシティが不足していると言わざるを得ません。令和6年9月に開催させていただいた、なら奈良まつりの来場者数が約2万人だったことを考えると、駐車場のキャパシティ不足は明らかです。

##### ② 提言内容

平城宮跡駐車場の拡充を提言いたします。県営奈良めぐり平城宮跡前駐車場南側の空き地スペースの有効活用を要望いたします。また周辺には奈良県が収用して未使用となっている土地があり、イベント期間のみ使える臨時駐車場として開放していただくことも可能ではないかと考えます。



(© OpenStreetMap contributors)

「駐車場拡充のイメージ図」

(赤色：県営奈良めぐり平城宮跡前駐車場南側にある空き地スペースの部分)

(青色：県が収用した未使用地、イベント期間のみ使える臨時駐車場の部分)

## ・平城宮跡をイベント使用・設営する際の搬入車両規制の緩和

### ① 現状の課題

イベントの際には、大小様々な資材が搬入されて、開催前日には設営作業、開催後には撤収作業が必要です。搬入物はステージ機材、ブーステント、案内板、カラーコーン、机、椅子など多岐に渡ります。その資材搬入の際に平城宮跡に進入可能な車両には重量規制があります。現状では車両総重量は4 t以下まで通行可能と、平城宮跡管理センターの資料に記載があり、現場でもその通り指導と運用がなされています。

イベント用品レンタルを行う事業者の現場の声として、一般的なテント（2×3間テント）1張＝100kgであり、1張に対して使用する重しは天候（特に風の影響）で変える場合がありますが180kg～300kgとなります。一般的な2tトラック（車両重量＝2t）の場合は経験上テントを6～8張分積んで走るのが限界です。

イベント規模が大きくなれば、テント、ステージ、大型発電機など重量物の搬入がありますが、**重量規制が厳しく、搬入車両台数が増加し、設営にかかるコスト及び搬入時間が大幅に増えます。**

### ② 提言内容

現在総重量4t以下という規制を、**8t未満まで上限を上げる**ことにより、搬入車両は4t車を使用することができ、**搬入資材を約2倍積む**ことが出来ます。**作業人員、作業時間が半減されてコスト削減**につながり、イベントが開催しやすくなります。

イベントをより魅力的な内容にすることによって観光客増加が見込まれ、宿泊者増加に繋がることが予想され、事業者ひいては奈良市にとってメリットになると考えます。

これらの観点から搬入車両規制の緩和を提言いたします。

## ・平城宮跡使用申請における窓口の一本化

### ① 現状の課題

平城宮跡歴史公園のウェブサイトを参照すると、イベント会場として使用する際は1ヶ月前までに平城宮跡管理センターに連絡することと記載がありますが、実際は約半年前から平城宮跡管理センターとの打合せが始まり、3ヶ月前から各種申請書類提出のために関係各所へと相談に行きます。

使用申請の進め方が不明瞭である点、窓口が対応できる平日日中に限られる点、一部でメールでの提出が可能な書類もありますが、書類に記入して持参する必要があることが課題として挙げられます。

## ② 提言内容

イベント使用申請窓口を奈良市に一本化をすることを提言します。オンライン申請可能としていただくことで、申請者と行政にとって多くのメリットがあると考えられます。以下箇条書きでメリットを述べます。

### ○窓口一本化のメリット

- ・移動時間と交通費の節約になる
- ・申請や届出にかかる時間が短縮できる
- ・申請の進め方がシンプルで明瞭になる

### ○オンライン申請化のメリット

- ・窓口の開いている平日日中に時間が取れない方も申請ができる
- ・ペーパーレス化を実現できる
- ・提出した内容を利用者、行政側がいつでも、どこからでも確認ができて管理コストが下がる

またオンライン申請が実現できる場合に、過去同じイベントをした団体の書類を過去に遡って見られるようにしていただけると、**行政も利用者も、双方にとって管理・検索にかける手間と時間が減ることになります。**利用申請手続きの簡素化、明瞭化を実現することで、**平城宮跡におけるイベントやお祭りを行う団体が多くなり、更なる地域の活性化に繋がると考えます。**

私たちは令和元年度、令和5年度で平城宮跡内の使用時の申請一本化、及び利便性の向上について提言をさせていただきました。その中では、管轄が国（国土交通省、文化庁）、県と分かれている申請を奈良市が取りまとめることや、車両規制の緩和、杭打ちの許可、駐車場の拡充などについて意見を述べさせていただきました。

今回の提言をもって、人が集まりやすい環境を整えるために、地権者である奈良市とともに、**奈良県や国に対して働きかけのご協力**をお願いしたいです。

## 提言②

### 教育「キャリア教育の拡充について」

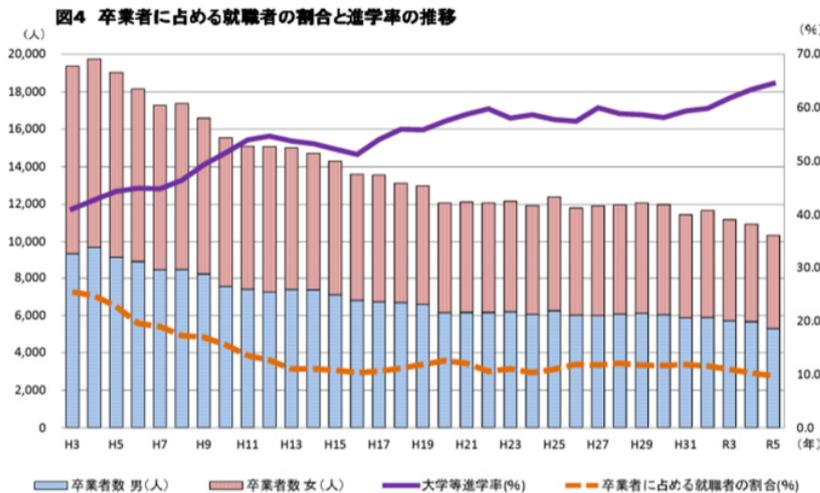
全国的に少子高齢化・人口減少が進む中であっても、地方都市として明るい未来を迎えるためには、この地で雇用を創出し、生活を営み、また新たな世代が奈良で働き生きて地域を紡いでいくということが最も重要なことのひとつであると考えます。そのためには学生の頃より奈良への郷土愛を育み、将来奈良で働く意識を向上させることが理想的です。

この雇用の創出という点におきましては、私たち奈良YEGのメンバーひとりひとりが自社企業の発展という側面から常日頃より意識しているものであり、YEG活動の中で自社のため、延いては地域発展のため様々な学生向けキャリア教育事業を行っています。そこには前述の郷土愛を育むものや、奈良で働くことの意義などを学生に伝える事業もあり、経営者団体であるYEGにしかできない活動として、教育現場からお声をかけていただいていた実績があります。

このYEGが行っている活動をさらに周知、広めていくことで奈良市が推進するキャリア教育を通じた地域発展の一助となり、奈良市発刊の「ならキャン」にも記載のある「社会人になっても奈良が好き！」というまさに郷土愛精神を育み奈良の明るい未来に寄与することが期待されます。

#### 1. なぜキャリア教育が必要なのか

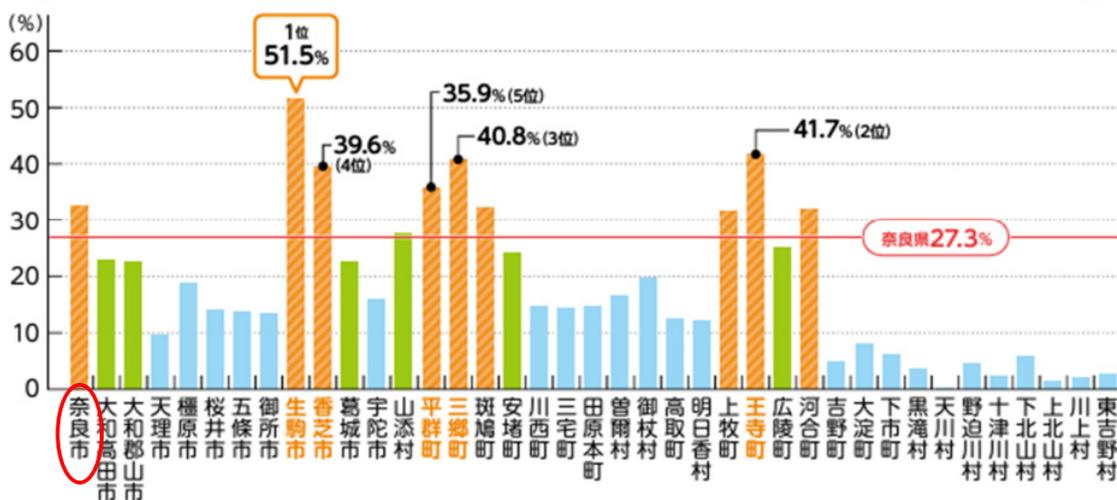
奈良県のデータ（令和5年度学校基本調査より）を見てみますと下記推移グラフのように少子高齢化に伴い卒業生数の減少が見取れますが、当該グラフのもう一つ注目すべき点は大学等進学率が増加している点であると考えます。奈良市を含む地方都市では都市圏に存する有名国立・私立大学への進学希望者が多い状況であり、実際に奈良市においても大学進学時点での顕著な人口流出が見受けられるのではないのでしょうか。



【奈良県令和5年度学校基本調査より】

また、いわゆるZ世代と呼ばれる今後の日本を担っていく世代に人気のある職種を調べていきますと、プログラマーなどのIT分野やYouTuberなどのインフルエンサーなど時流に乗った職業や医療分野など専門職が人気のようです。この点について奈良市の「未来ビジョン2031」のうち「しごとづくり」の項目と照らしてみますと、「観光・交流の促進」「商工・サービス業の活性化」「農林業の振興」「雇用・労働環境の充実」への注力が掲げられており、前述のZ世代の希望職種や将来ビジョンとは一見乖離しているものと見受けられます。実際に奈良市では約30%以上の方が県外に就職している状況でありこのギャップが就職による人口の県外流出の一因になっている可能性もあるのではと勘案いたします。

市町村別県外就業率(2020(R2)年) 資料:総務省統計局「令和2年国勢調査」



では、奈良県・奈良市において職種を含め若者向けのコンテンツに注力していけば良いかというところという訳ではないと考えます。1300年という長い期間紡いできた地域価値は都市圏に負けておらず、この何事にも代えがたい価値はこの先も歴史が遺跡とならないよう紡いでいかなければならないものであります。そのためには「未来ビジョン2031」にありますよう、既存の観光ビジネスや商工サービス業の継続維持・発展は避けて通れないものであります。

事業の継続維持・発展のためには「ヒト・モノ・ノウハウ」の承継が必須であり、そのうちヒトの承継には、次世代が奈良の歴史や文化を知ることと、都市圏にはない価値を見出すことが必須であることから、その点に着目し商工業者の立場から「キャリア教育の拡充」と銘打ち奈良YEGが主催する事業のうち以下2点についての提言を行います。

## 2. 提言

### (1) なら i s mの認知度向上と参加者増加の施策

#### ① なら i s mとは

産（奈良YEG）・官（公務員）・学（高校生）が一堂に会して、奈良について奈良に住むこと、奈良で働くこと、奈良がもっとよくなること、奈良の未来を元気にするためにできることなどをみんなで協議し知識や意識の研鑽を行うイベントです。また商工業の経営者団体が主催するキャリア教育コンテンツとしてこれから社会に出る学生にとって有意義なイベントとなっています。主催している奈良YEGも学生に何を感じてもらいたいのか、考えてもらいたいかに重きを置いて毎年の開催内容を検討しています。

#### ② 今までのなら i s mの活動実績

令和元年度 参加学生数61名

令和4年度 参加学生数45名

令和5年度 参加学生数73名

令和6年度 参加学生数48名

※令和2年3年度はWEB開催

#### ③ 現状の課題

なら i s mは参加いただいた奈良市職員の方や学生からは好評をいただいておりますが、奈良YEGとしても開催することの価値と重要性を見出しておりますが、まだまだその認知度が低いことが課題であります。また奈良YEGの会員メンバー一人ひとりが母校の恩師などに声掛けなどを行い徐々に広まりつつある機運はあるものの、先生の転籍やYEGメンバーの卒業に伴う参加率の低下や不安定性が課題であると考えます。

#### ④ 提言内容

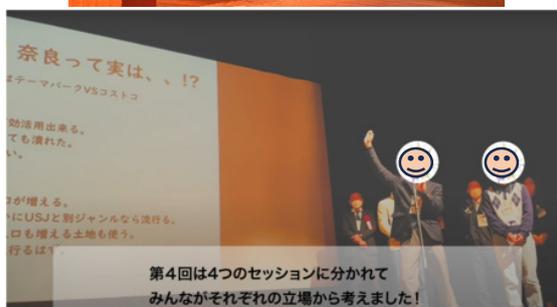
##### ・奈良市教育委員会における「なら i s m」参加募集窓口の設置

学生の頃学校行事として参加した運動会や校外学習などは普段の座学と違い学生にとっては大人になっても思い出に残っているものであります。これまで開催してきた「なら i s m」も参加いただいた学生にとっては運動会や校外学習と同様、大人になっても心に残っていくものと確信しています。その思い出こそが県外への憧れや流行りの職種を超え、奈良の未来への担い手として芽吹くものと考えます。

具体的には「なら i s m」を奈良の未来につながる準カリキュラムと位置付け、経常的・恒常的な参加と参加人数増加のため、奈良市内の中高等学校への周知と参加募集窓口の設置を提言します。

また、「なら i s m」は前述のとおり6回の開催実績があり年々内容のブラッシュアップを重ねてきていることから、民間が開催するキャリア教育の場とし

では十分な教育コンテンツに資するものと自負していますが、あくまで単年ごとの参加者に対してのみ寄与するものですので、行政側も一参加者としての立場のみならず開催内容や参加状況などの情報蓄積により今後の奈良の担い手教育の検討材料として活用いただきたいと考えております。



【今まで開催してきた「ならism」の様子】

## (2) YEGバンクの有効活用

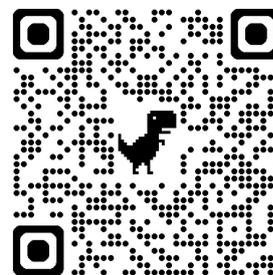
### ① YEGバンクとは

「YEGバンク」とは、奈良YEGで作成しているメンバーの職種・職業別データベースであり、メンバーの企業を簡単にサーチできるシステムであります。活用方法としましてはこのデータベースを基に、希望する職種の職場体験や訪問授業の申し込みを行うことが可能となっており教育コンテンツの一つとしてご利用いただけるものであります。

#### ■ 部会リスト一覧

各部会で紹介している企業の詳細ページから、訪問授業と体験授業をお申し込みいただけます。

<b>農業小売部会 (4)</b> 畜産部・畜産サービス及び各種農産品小売業 等	<b>観光部会 (3)</b> 飲食業・観光土産品製造・その他観光業 等
<b>建設部会I (12)</b> 不動産に関する業種、建設業 等	<b>福祉部会 (2)</b> 銀行業、保険業、その他の金融サービス業
<b>交通運輸部会 (5)</b> 自動車関連業・特種輸送関連業、運送業、その他の運送、付随するサービス業	<b>文化・情報部会I (6)</b> 製菓・土産、福祉・医療サービス業 等
<b>文化・情報部会II (2)</b> 通信販売サービス業、学校・施設、その他の専門サービス業 等	



【YEGバンクHP】

奈良YEGは100名を超える多くの業種が集う経営者団体ですので、そのメンバーの数だけ就職現場の声を届けられることが何よりの利点であります。

同じ業種であっても企業ごとに歴史や業況は異なり**多種多様な体験を提供**できます。

また、前述の「なら i s m」を通したキャリア教育は学生の郷土愛など心情へ働きかける教育コンテンツではありますが、YEGバンクでは学生が普段なかなか知り得ない奈良の既存企業や職種のメンバーも在籍しており、**学生の希望職種拡充の観点からも非常に利用メリットの大きいコンテンツ**となっております。

## ② YEGバンクの登録状況と今までの利用状況

YEGバンク登録企業数34社

令和4年度 訪問授業21時間 参加学生数773名

令和5年度 訪問授業15時間 参加学生数426名

令和6年度 訪問授業 8時間 参加学生数155名



【過去の訪問授業の様子】

## ③ 現状の課題

YEGバンク最大の課題はその**認知度**にあると考えます。そもそもYEGバンク自体が知られていないケースや、YEGバンクを知っていたとしても実際のコンテンツ内容の全容が把握し辛く、「利用するにしてもどのような業種が適正か」や「どのような講師がくるかわからない」などコンテンツ利用に足踏みが掛かることが考えられ、全容・実態の**認知度を上げ利用しやすいコンテンツとしての環境整備が必要**と考えます。

その環境整備としまして奈良YEG内でもコンテンツの充実化を図るとともに、教育現場(学校)と民間(奈良YEG)との直接的なやり取りだけでなく、市を通したコンテンツ利用を促すことで**教育現場におかれましても安心できるキャリア教育コンテンツ**として利用いただけるものと存じます。

## ④ 提言内容

YEGバンクは令和元年度に企画・運営が始まったものであり②のとおり活動実績を作ってきました。奈良YEGでは今回の提言を機に職種ごとの登録のみならず、

- 「新規事業立ち上げ枠」・・・YEGメンバー本人が創業者である事業グループ
- 「事業承継枠」・・・・・・・・YEGメンバーが親や他社から事業承継を受けたグループ
- 「専門資格特化枠」・・・・・・・・国家資格などに基づく事業を行うグループ
- 「都市圏対抗枠」・・・・・・・・奈良に所在しながら都市圏や世界と戦う事業グループ

※各枠組みや名称は仮のものです。

といった職種とは別枠を設け、個々の業種内容以外の会社経営や事業承継といった観点からもYEGバンクの活用をしていただけるよう内部整理も進めていく所存です。

そこで奈良市におかれましては「ならism」の周知と同様にYEGバンクの周知徹底をお願いしたく、更にこちらにつきましては将来的には正カリキュラムへの編入を目指し協議・実行していきたいと考えております。従前からのYEGバンクにおける希望職種ごとの活用であれば学生の希望職業選択に寄与することはいうまでもなく、また事業承継枠など新たな枠組みを設けることで単純な業種だけではなく、奈良で起業することの意味合いや事業を引継ぐことの重要性を学生に感じていただき、こちらも奈良という地域の未来をつないでいく一助になるのではないかと考えます。

## あ と が き

私たちは個人と企業の発展を通じて、地域の発展を目指し活動を行っております。そこには奈良市を包括的な視点で分析すること、そして課題を明確にした上で私たちが主体的に課題解決に向けた行動を起こすことで実現すると考えます。

その行動の一つの手法である提言活動も奈良市担当課の皆さまや関係各所のご協力のもと提言書を作成し提出する運びとなりました。

今年度の提言書は、私たちがすでに行っている活動に大きく直結する内容となっており、実現することで大きな後押しとなるとともに、地域へも引き続き大きな貢献が生まれると考えます。

そしてこれからも引き続きこの奈良の未来を想い提言活動も行っていきたいと考える中で、初めて奈良市担当課への「提言活動に関するアンケート」を実施させていただきました。そこには提言活動への期待も多いかたわら、単年度で活動する私たちの課題も浮き彫りになる声もいただきました。これからは提言の実現に向けて、より解像度が高いものを提示できるように私たちの体制を思案することが求められ、この件も共に創っていければと考えます。

最後に、ご協力いただきました皆さまに感謝を申し上げるとともに、奈良市が描いている理想をより深く理解し、経済的視点で同じ景色が描けるようにこれからも提言活動のみならず邁進していくことを誓います。

ご一読いただきありがとうございました。

副会長 岡田 充貴

**【企画・制作】**

奈良商工会議所青年部 一同

**【編集】**

令和6年度 地域創造委員会

委員長 中藪 淳也

副委員長 川田 恭久・西川 成悟

委員 阿部 千幸・池田 智之・大森 正義・黒 康晴・桑前 陽介

鈴木 隆嗣・高林 誠 ・谷川 利佳・西村 孝大朗

松山 圭介・山田 佑貴・横田 高志



奈良商工会議所青年部